

牛のクロストリジウム感染症とワクチン



牛のクロストリジウム感染症とは？

クロストリジウム属菌が、気腫疽、悪性水腫、クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症（旧：壊死性腸炎）、牛ボツリヌス症など様々な病気を引き起こします。また、ひとたび発生すると、多くの牛が急死するなど大きな被害を及ぼすことがあります。

菌は、土壌や河川等、広く自然界に分布し、健康な動物の体内にも存在しているため、全ての農場の牛で発症する可能性があります。また、有効な消毒薬は、塩素系、ヨード系、アルデヒド系に限られます。

疾病名と原因菌及び症状をまとめると次の表になります。

疾病名	原因菌	共通症状	その他の主な症状
気腫疽	C.chauvoei	急 死	皮下浮腫、捻髪音、発熱と震え
悪性水腫	C.septicum C.novyi C.sordellii など		発熱、呼吸困難、皮下浮腫
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	C.perfringens		血便、出血性下痢、呼吸困難
牛ボツリヌス症	C.botulinum		流涎の増加、後駆麻痺、呼吸困難

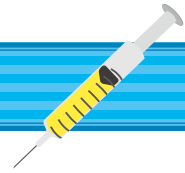
県内での発生状況です。悪性水腫、牛クロストリジウム感染症、牛ボツリヌス症については、過去6年以内に発生があります。発生数は少ないものの、毎年発生の報告があげられています。

年度	悪性水腫		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症		牛ボツリヌス症	
	戸数	死廃頭数	戸数	死廃頭数	戸数	死廃頭数
R 4	0	0	1	64	0	0
R 3	0	0	0	0	2	2
R 2	0	0	4	5	1	1
R元	0	0	2	1	0	0
H29	1	1	2	6	0	0





予防方法は？



原因菌の増殖や毒素の産生を防ぐことはできませんが、体内の毒素を中和し、発症を防ぐことができる有効なワクチンがあります。

ワクチンの効果を高めるために、農場の清掃・消毒、防鳥ネットや殺鼠剤の設置などの野生動物侵入防止対策、良質な飼料の給与を徹底しましょう。特にサイレージは、土壌や野生動物の死骸等の混入のない良質なものを給与しましょう。



そのうえで、下記のワクチンを適切に接種しましょう。

ワクチンの種類	菌種	接種時期	用法（下図を参照）
牛クロストリジウム 感染症5種混合	C.chauvoei C.septicum C.novyi C.perfringens C.sordellii	3か月齢以上	1か月間隔で2回接種、その後6か月間隔で接種
牛クロストリジウム・ ボツリヌス感染症	C.botulinum C型菌・D型菌	2か月齢以上	4週間隔で2回接種

ワクチン接種プログラム

牛クロストリジウム感染症5種混合	牛クロストリジウム・ボツリヌス感染症
3か月齢以上の牛	2か月齢以上の牛
<p>1か月間隔</p> <p>半年～1年毎</p>	<p>4週間隔</p> <p>毎年</p> <p>用法・用量どおりに接種すると、7か月間、防御効果が確認されている。</p>

※資料提供・文献

岡山県・動物用ワクチン利用の手引き（牛用ワクチン編）動物用ワクチン等保管協議会・ワクチン使用説明書

病気については最寄りの家畜保健衛生所へ、ワクチンの詳細や接種料金については岡山県畜産協会各支部、又は診療獣医師へお尋ねください。

岡山家畜保健衛生所・畜産協会岡山支部 TEL 086-724-3880

井笠家畜保健衛生所・畜産協会井笠支部 TEL 0866-84-8221

高梁家畜保健衛生所・畜産協会高梁支部 TEL 0866-22-2077

津山家畜保健衛生所・畜産協会津山支部 TEL 0868-29-0040

一般社団法人 岡山県畜産協会 家畜衛生部

岡山市北区磨屋町9-18 TEL 086-232-8442